

勢いを増す反まき網・FADs 運動

—GPに屈する前に自らの力で解決を

2011年9月26日 みなと新聞 掲載

缶詰原料用にカツオ、キハダを漁獲する世界のまき網漁業は、FADs（人工集魚装置：浮き魚礁）が開発されて、漁獲効率を一段と向上したと言われている。FADs 操業は、未成熟のメバチ・キハダ等も混獲するので、資源に与える影響が大きく、全ての地域マグロ漁業管理機関が解決に向け取り組まなければならない課題であると認められてから久しい。だが、わずかに、FADs 操業の期間禁漁が、一部水域で導入されたに過ぎず、また、その規制の効果を疑問視する意見もある。ここにきて、環境団体グリーンピース（GP）が積極的にFADs 操業中止を求めた運動に乗り出している。

—英国大手SM、FADs 鮪販売中止

マグロ缶詰消費世界第二位の英国では、今年になって、英国第4位のスーパーマーケットチェーンのモリソンが、テスコ、アスタに続いて、2013年までには、FADs で漁獲したマグロを使った缶詰の販売を止めると声明。大手スーパーマーケットが軒並み、FADs マグロの販売中止を決定した。GPは、わずか数か月の運動で、FADs マグロ販売中止が実現したことを歓迎し、英国におけるFADs 操業反対キャンペーンの勝利を宣言した。（他の大手スーパーマーケットチェーンは、既に、竿釣りマグロの缶詰に切り替えていた。）

また、英国最大のマグロ缶詰会社のプリンセスは、GPが、同社のマグロ缶詰ラベルに対し、「海洋環境と海洋生物を保護する漁法で獲ったマグロを使用」と記載しているのは、不正表示だと公正取引委員会に提訴した際に、これに対抗する構えを見せたが、4日後に、方針を転換、2014年までに、FADs で漁獲したマグロを原料とする缶詰の販売を止めることをアスタと合意したと発表した。モリソンは、FADs マグロ缶詰販売中止の発表に際して、何ヶ月も缶詰会社と検討した結果、決定したことだと述べ、更に消費者から多数の抗議があったこともその理由にあげている。

—米国に広がるFADs 反対運動

FADs 反対運動は、更にマグロ缶詰世界最大の消費国の米国へ広がっている。GPは、「英国の全マグロ業界は、持続的な漁法への転換を約束した。FADs は、マグロを大量に漁獲するばかりでなく、無差別に未成熟魚も捕獲し、マグロ資源の持続性に悪影響を与えている。米国の消費者も、立ち上がり、米国の缶詰会社に対し、責任ある持続的な漁法で獲ったマグロを提供するよう求めるべきだ」と述べ、8月、キャンペーンを開始した。米国マグロ缶詰産業の中心地のサンディエゴ市で「マグロ缶詰の齎す殺戮」と胴体に大書した飛行船を使って、市

民の注目を集める一方、缶詰会社のマスコットロゴの蜂を利用したマンガ動画をインターネットで流し、米国の缶詰業界から抗議を受けているが、動じないばかりでなく、「キャンペーンは始まったばかりで、これからもあの手この手で運動を続ける」と述べている。

—現状続けば、鮪漁業維持困難に

米国水産業界を代表する米国水産会（NFI）は、「環境団体の資金を集める手段の一部として暴力的で、下品な動画に缶詰会社のロゴが、使用されていることを、米国の缶詰業界は憂慮している。年間3億ドルもの活動資金を集めているGPは、運動を継続するためには、毎日70万ドルも集金しなければならない。この事実を念頭に置かなければならない。GPの子供じみた運動は、真に問題の解決を図るための、合理的で有意義な協力を生み出そうとするものではない」と批判している。

FADs 操業のみでなく、漁獲量の増加を続けている世界のまき網漁業の過剰漁獲能力問題をいつまでも解決できなければ、早晩、漁法を問わず、持続的なマグロ漁業を維持することは困難となるだろう。環境団体の運動も、マグロ漁業のグローバルな縮減に向けて更に勢いが増すのではないか？そうなる前に、世界の関係業界が一致して自ら問題解決に向けて積極的に取り組むことが必要だ。